



創る

花壇の「菜の花1号」

3年生の卒業も目前に

令和7年

2月25日(第21号)

学校長 村松 章史



「今」を大切に

卒業まで、あと2週間

のよりどころとなる一文字を決めて刻んでいます。作品は卒業式の会場に展示される予定です。

黙々と一文字に向き合う3年生。これらは美術の授業で行っている卒業制作に取り組む様子です。それぞれが将来への夢や希望、自分自身の



3年生は卒業の日まであと2週間、学校への登校日だけで言えば10日余りとなっています。また、多くの生徒が受検する公立高校後期入試までは1週間となりました。卒業後のことや入試の結果を考えると不安になりますが、同じクラス・学年の仲間と同じ時を過ごすことが、生徒たちにと

って当たり前が当たり前でなくなってしまうという実感となって、不安よりも「今を大切にする」という気持ちにつながっているのかも知れません。

言葉・文字は、私たちが生きていく上でコミュニケーションのツールであるとともに、自分らしさの表れでもあります。言葉こそ自分自身と言うこともできるかも知れません。生徒たちには、自分の言葉で「未来」や「希望」を語ってもらいたいですし、温かく刺さる言葉を使える人になってもらいたいです。そう言う自分(大人)も、生徒(子ども)



にどんな言葉を届けるか考えたいと思います。

3年生には、入試や卒業に向けて、心と体の調子を整えて当日を迎えてほしいと願います。



町の行政の現状を学ぶ

社会科公民授業

しまうの？」といった漠たる不安は感じて、それを具体的に知るという機会はなかなかありませんし、内容も難しいものです。伊藤さんは、生徒がイメージしやすいレベルに置き換えるなど様々な資料を用意して話してくださいました。

生徒にとっては知識を広げるだけでなく、「先輩が町のために頑張っている姿」「情熱を持って仕事に当たっている姿」に触れたことも大きな学びとなったようです。そんな町役場の方のおかげで、日々が支えられていることに感謝です。

2月18日、町役場総務課行財政改革推進係の伊藤さん(本校卒業生)を講師に招き、町の行政の現状や課題・対策について学びました。「財政非常事態宣言」について、「町がなくなっ

